



ソーシャル・データサイエンス学部での教育活動

神戸大学 経済経営研究所
准教授 加藤 諒

私は神戸大学経済経営研究所と一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部のクロスアポイントメント教員としてこちらに所属しています。今回はデータサイエンス系学部の教育などについて、書きたいと思います。

昨今は全国各地の大学で、データサイエンス系の学部が新設されており、一橋大学でも2023年度よりソーシャル・データサイエンス学部が設置され、私もそこに配属されています。また、神戸大学でも2025年にシステム情報学部の新設が予定されており、ここでも人工知能(AI)を含めたデータサイエンスに精通した専門人材を育成することを目的としているとのことです。その他にも名古屋市立大学のデータサイエンス学部、京都女子大学のデータサイエンス学部など、特に2023年度はデータサイエンス系学部の新設ラッシュとなりました。

さて、私の所属する一橋大学では「データサイエンス学部」ではなく、「ソーシャル・データサイエンス学部」の名称を用いています。この“ソーシャル”とは、一橋大学が伝統的に強みとして持つ法学・経済学・商学・社会学の4つの社会科学=ソーシャルサイエンスのことを指します。本学部では、「社会科学の知識だけでは解決できない課題」、或いは「データサイエンスの知識だけでは解決できない課題」を、両方の知識を習得することで解決できる人材を養成することを目的としています。

「社会科学の知識だけでは解決できない課題」というのは、あるビジネス課題や社会課題を解決するために、従来の社会科学の“理論”だけでは解決することができず、得られるデータを活用・分析することで解決することができる課題のことです。これは比較的想像が容易なのではと思われます。

それでは「データサイエンスの知識だけでは解決できない課題」とはどのようなものを指すのでしょうか？ここでは私の専門分野を例に挙げて説明します。私の研究分野はマーケティング・サイエンスと呼ばれる、様々なマーケティング課題についてデータサイエンスを用いて解決することを主眼とした研究分野で、まさに「ソーシャルサイエンス×データサイエンス」な分野です。マーケティングの現場から得られるデータを、AIや統計学の方法論を用いて、ある一定の示唆を得ることはデータサイエンスの知識である程度可能です。しか

しその一方で、そのデータから結果について、マネジメントや現場が理解可能な解釈を与えるには、マーケティングの理論的な知識が必要です。また或いは、そもそもデータを取得する際に、例えば消費者調査を行う場合には、その調査票の設計に消費者行動論や消費者心理の知識（どのような尺度を質問票で聞くのか、など）が必要となります。つまり、データサイエンスの知識に、マーケティングというソーシャルサイエンスの知識を加えることで、得られる示唆をグッと大きくすることができるのです。

ソーシャル・データサイエンス学部は、現在は1学年あたり約60名という、非常に少数精鋭感のある学部となっていますが（実際に入試倍率は一橋大学の学部の中でトップ）、学生の関心は非常に多岐にわたるように思います。現在は（2023年度に新設された学部のため）学部2年生までが在籍しており、学生たちはソーシャルサイエンス×データサイエンスの知識を厳しく忙しいカリキュラムの中で習得している段階です。私は一橋大学で広報委員をしていることもあり、担当している講義外でもオープンキャンパスの撮影などで学生たちと交流をする機会が多いのですが、将来の展望を聞いてみると

- ・高齢化社会の課題を解決するためのAIを活用したデバイスを作りたい、
- ・環境問題に対してよりグローバルな視点で実証的にアプローチしたい、
- ・マーケティング分析のノウハウを大学で学習して学生の間で起業したい、・・・

など、日本の将来は明るいのでは、と思わせてくれる学生がとても多く在籍しています。

私自身もこれまであまり慣れていない講義ではありますが、持っている知識をできるだけ多く伝えようと、丁寧な講義資料の作成や実例を用いた説明の工夫など、試行錯誤している段階です。また来年度からはソーシャル・データサイエンス学部1期生である現在の2年生が3年生に進学するため、ゼミナールもスタートすることとなります。そこでは研究や兼業でお付き合いのある企業とゼミ生とで共同研究をしたり、或いはインターンなども積極的に紹介したりすることで、マーケティング×データサイエンスのビジネス応用を意識した教育をしたいと考えています。ソーシャル・データサイエンスを身に着けた学生の育成を通じて、（もちろん研究に加えて）教育面でも世の中に貢献したいと、日々精進しています。大変ではありますが、優秀な同僚や学生たちと楽しく過ごしています。

近況報告も兼ねまして、ソーシャル・データサイエンス学部での教育活動について簡単に記させていただきました。